

① 内閣府防災情報「東海地震、東南海・南海地震について」

中央防災会議で検討対象とした大規模地震

東海地震

予知の可能性のある地震

30年以内の地震発生確率:87%

西日本全域に及ぶ超広域震災

東南海・南海地震

30年以内の地震発生確率:

70%(東南海地震)

60%程度(南海地震)

老朽木造市街地や文化財の被災が懸念

中部圏・近畿圏直下の地震

20mを超える大きな津波

日本海溝・千島海溝 周辺海溝型地震

30年以内の地震発生確率:
99%(宮城県沖地震)

我が国の中枢機能の被災が懸念

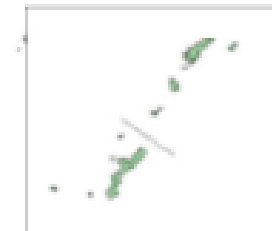
首都直下地震

30年以内の地震発生確率:

70%程度(南関東で発生する
M7程度の地震)

地震発生確率は文部科学省地震調査研究推進本部による
(2011年1月1日現在)

海溝型地震
直下型地震



- * 内閣府防災情報
- ・東海地震、東南海・南海地震について
中央防災会議で検討対象とした大規模地震
- ・地震発生確率は文部科学省地震調査研究推進本部による
(2011年1月1日現在)

② 内閣府防災情報 「南海トラフ地震-その時の備え」

地震の発生に備えよう

□家具の固定



□非常用持ち出し袋の準備



□水や食料の備蓄



□避難場所や避難経路の確認



□感震ブレーカーの設置



□建物の耐震化



自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう

(発表条件)

南海トラフ地震 臨時情報

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

キーワード

調査中

巨大地震警戒

巨大地震注意

調査終了

- 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合

- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合

- 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合

- 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合

- ひずみ計等で有意な変化として認められる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合

- 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

南海トラフ地震 関連解説情報

- 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし臨時情報を発表する場合を除く）



内閣府政策統括官(防災担当)付
参事官(調査・企画担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館
電話：03-5253-2111(大代表) FAX：03-3501-6820
内閣府ホームページ <http://www.bousai.go.jp/jiekin/taunkai/>



お問い合わせ先



気象庁地震火山部地震予知情報課

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3番4号
電話：03-3212-8241(代表) FAX：03-6689-2917(東京・名古屋・大阪)
気象庁ホームページ <https://www.data.jma.go.jp/fnd/ogp/dats/taunq/index.html>



発行日：令和元年6月

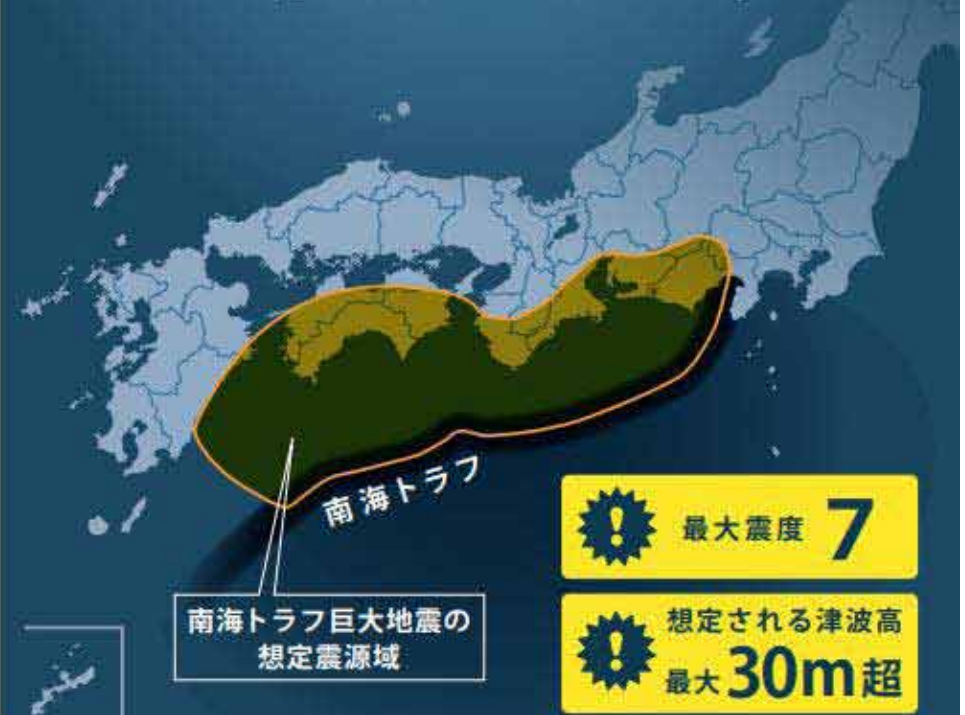
南海トラフ地震

—その時の備え—

知ることであなたと大切な人の命を守る

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘にかけてのプレート境界を震源域として、過去に大きな被害をもたらしてきた大規模地震です。

次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。



最大震度 **7**

想定される津波高
最大 **30m 超**

(発行日 令和元年6月)

わが家が一番危ない！

東京消防庁

③「令和3年救急搬送データからみる日常生活の事故の実態」

4. 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。
なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1－5）。

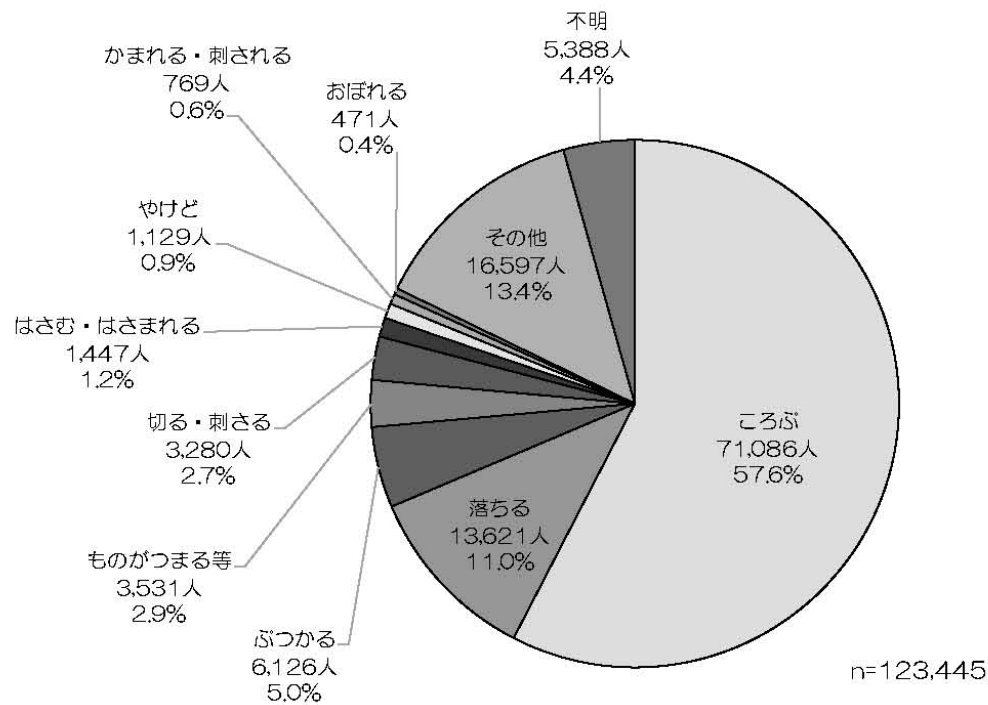


図1－5 事故種別ごとの救急搬送人員

5. 発生場所別搬送人員

発生場所別に見ると、半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1－6）。

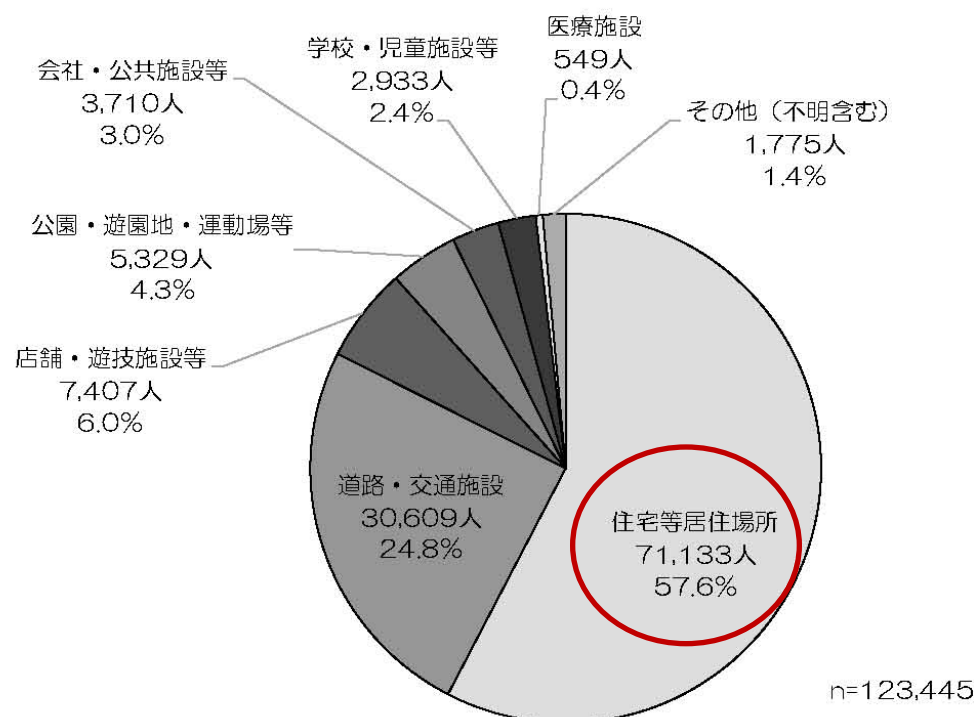


図1－6 発生場所別の救急搬送人員

参考資料



阪神大震災（撮影:アトリエ4A）



阪神大震災（撮影:アトリエ4A）



阪神大震災（撮影:アトリエ4A）



お神楽普請の家の2階の崩落(阪神・淡路地震)（撮影:アトリエ4A）



阪神大震災:柱一本で倒れたほとんど新築の家(撮影:アトリエ4A)



阪神大震災（撮影:アトリエ4A）